

令和 5 年度

益子町教育委員会活動状況評価報告書

益子町教育委員会

令和5年度益子町教育委員会活動状況評価報告

1 点検・評価について

(1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果について報告書を作成し、議会に提出するとともに公表をする。

(2) 目的

教育委員会の各施策・事業について着実に実施されているか、また、効果的に行われているかについて、教育委員会自ら点検・評価を行うことにより、今後より一層の教育行政を推進するとともに、町民に対し教育行政の説明責任を果たしていくことを目的とする。

(3) 点検評価の方法

点検・評価の客観性を確保するほか、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、教育委員会活動の自己点検・評価外部検討委員会を開催して、教育委員会の各施策・事業について各担当より説明し、外部評価委員から意見、助言を求める。

外部評価委員

氏名	所属等
渡邊重雄	元町議会議員
佐藤巧	P T A代表
手塚朗彦	元小学校長
日下田欣一	民生児童委員代表

(4) 評価方法

評価はAからDで行い、Dは改善策を示す。

- A 目標を達成している。
- B 目標を上回っているが改善すればさらに良くなる。
- C 目標どおりであるが改善すべき点がある。
- D 目標を下回り改善を要する。

2 点検・評価結果

◎評価のまとめ

(1) 教育行政全般 (評価最頻値 : A)	
ア 特に良好であった内容 なし	
イ 特に改善を要する内容 なし	改 善 策

(2) 学校教育 (評価最頻値 : A)	
ア 特に良好であった内容 ① 小学校の外国語活動（英語）について ② WEB-QU調査の実施について	
イ 特に改善を要する内容 なし	改 善 策

(3) 生涯学習 (評価最頻値 : A)	
ア 特に良好であった内容 ① 世間遺産サイクルツアーについて	
イ 特に改善を要する内容 ① 益子検定について	改 善 策 受験のハードルを下げる取組みが必要

〔 教育行政全般 〕

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
1 教育行政基本方針の策定	(1) 新教育基本法を踏まえ教育行政基本方針が策定されている。	A	毎年2月、定例教育委員会で「益子町教育行政基本方針」を策定している。	A	
	(2) 教育行政基本方針を議会に公表している。	A	2月の全員協議会において説明している。		
	(3) 毎年度教育基本方針の内容を見直し、その成果を評価している。	A	成果指標のとおり目標が達成された。		
2 定例教育委員会	(1) 定例教育委員会開催の告知をしている。	A	町内3か所の告示板で告示を行うほか、広報ましこ「お知らせ版」にて告知している。	A	
	(2) 会議では適切な意見交換が行われている。	A	教育長の進行により各委員から積極的に意見が出されている。		
	(3) 定例教育委員会には全員の教育委員が出席している。	A	定例教育委員会時に日程を調整し、全員出席している。		
	(4) 会議録が整理されている。	A	会議録を整備している。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
3 教育委員会の評価と結果公表	(1) 教育委員会の活動について評価を実施している。	A	平成20年度から活動状況点検と評価を実施している。	A	
	(2) 評価結果を公表している。	A	毎年議会に報告するほか、益子町HP上において公表している。		
4 教育委員が出席する行事	(1) 委員が出席する行事は、委員間で協議し共通理解をしている。	A	定例教育委員会において、行事日程を協議・理解している。	A	
	(2) 教育委員が出席する行事は関係委員が出席している。	A	欠席とならないよう、日程の調整をしている。		
5 教育委員研修	(1) 教育委員研修は芳賀管内で連携し実施している。	A	教育事務所等を中心に連携・実施し参加している。	A	
	(2) 研修に教育委員が積極的に参加している。	A	定例教育委員会において、教育長が研修を行う時間を設けている。		

〔 学校教育 〕

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
6 小学校外国語活動（英語）	（1）児童の外国語活動におけるコミュニケーション能力の素地を育成している。	A	児童アンケートより「外国語活動（英語）の授業は好きである：72.0%」「外国語活動（英語）の授業に進んで参加している：89.9%」「外国語活動（英語）の授業で、先生や友達とのコミュニケーションは楽しい：82.0%」「外国語活動（英語）の授業中、先生や友だちに英語を使って自分の考えを伝えることができる：78.7%」の肯定的な回答率を得た。児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができた。	A	○5・6年生が学習する内容は以前と比べて増えてきているが、授業が好きな子の割合が高いのは良かった。英語への抵抗感が減り、中学校との連携が上手くいけば良い。
	（2）授業研究会や外国語活動研修会、授業力アップ講座を行い、授業改善への取組を推進している。	A	小学校1・2年生において、外国語活動で担任とALTで授業を実施し、小学校3年生以上の外国語科活動及び外国語科の授業については、外国語専科教員がALTと実施している。それに伴い、対象を外国語専科教員等とした授業研究会及び研修会を実施し、指導力の向上を図った。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
7 魅力ある学校づくり	(1) 児童生徒指導部会や研修会等を行い、小中学校が連携し、不登校やいじめを未然に防ぐことをねらいとした取組を推進している。	A	WEB-QU調査を実施し、指導者が帰属意識の高い学級づくりを行い、児童生徒一人一人の自己有用感を高められた。令和5年度からWEB-QUを導入することで、その結果を即座に学級経営に反映させることで、不登校やいじめを未然に防ぐ手立てとしている。	A	○hyper-QU調査からWEB-QU調査に変更したことで、タブレットを活用し、支援が必要な子どもにタイムリーに対応できている。学級担任にとっても大きな支援になる。
	(2) 全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査、益子町学力学習状況調査を実施し、その結果を分析し、児童生徒の学力向上に向けて、組織的に取り組んでいる	A	各学校の学力向上改善プランの作成を支援し、学習指導に関わる検証改善サイクルを確実に運用させ、児童生徒一人一人の学力や教師の指導力の向上が図れた。全国学力・学習状況調査の小6年では、国語は全国平均67.2に対して益子町は73.0、算数は全国平均62.5にたいして益子町は65.0の結果で良好である。中3年では、国語は全国平均69.8に対して益子69.0、数学では全国平均51.0、益子町49.0となっている。令和6年度から学力向上推進リーダーが中学校すべてに配置し学力向上にさらに取り組んでいく。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
7 魅力ある学校づくり	(3) 教育課程特例校制度における年間指導計・単元計画を作成し、専科教員、学級担任主導で毎時間ALTとのチームティーチングで外国語活動を実施している。	A	年間指導計画をもとに、専科教員、ALTとのチームティーチングで外国語の授業を工夫しながら実施することができた。		
8 特別支援教育	(1) 対象の園児・児童生徒の様子を観察し、保護者と教育相談を行っている。	A	平成29年度から開始した各園への巡回相談(年長児対象)を令和5年度も実施し、対象となる子どもの詳細な状況を把握することができた。また臨床心理士・園・学校・保健センターとの情報共有をより密に行うことにより、早期から保護者との教育相談に取り組むことができた。	A	▲特別支援教室で学ぶ子どもが増えている状況で、負担増が見込まれる現場からの要望等に対応されたい。
	(2) 能力に見合った適切な教育機関への就学指導を行っている。	A	対象となる子どもの知能発達検査等を実施し、客観指標をもとに保護者に対し就学相談を複数回実施した。指標の採用や資料等により対象児童への指導方針も明確にすることができた。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
8 特別支援教育	(3) 教育支援委員会を適宜開催している。	A	各小中学校の担当者会議を7月に開催し、入級判定基準の確認や審議資料・個別の指導計画資料の作成方法等について情報交換・共有を行った。その結果、より適切に会議を開催することができた。		
9 備品管理	(1) 学校備品台帳のデータベース化を推進している。	A	新規購入物品についてデータ入力を行った。	A	
	(2) 既存台帳の整理を随時行っている。	A	既存台帳内容の確認を学校ごとに実施し、事務局保管台帳の加除を行った。		
10 教育支援センターの運営	(1) 教育支援センターの運営が円滑に行われている。	A	センター長を中心に通級児童生徒に対してきめ細やかな指導助言に努め、充実した運営を行った。	A	▲学校に通えない子どものサポートに注力いただきたい。また、不安を感じている保護者への対応もお願いしたい。 新しい技術を用いた環境作りについても、先進事例等を研究されたい。
	(2) 「学校に行けない、行かない」子ども達に居場所を提供し、個別学習、相談や体験活動等を通し、社会に出て行くための基礎づくりをしている。	A	子ども達の実態に応じた個別学習の場を設定したり、調理実習や校外学習等を実施したりすることができた。また、学校や教育委員会と連携を図りながら、子ども達や保護者と教育相談を行った。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
1 1 学校施設工 事	(1) 教員等学校現場の意向を反映している。	A	設計の段階から、学校と綿密に連携を図り、意見を反映させた。	A	
	(2) 事業に必要な財源の確保がされている。	A	財源を確保し実施することができた。		
	(3) 学校現場の状況に合わせ、整備計画を適宜見直している。	A	優先順位を見直しながら、適切な整備計画に更新している。		
	(4) 工事に伴う生徒の安全確保がなされている。	A	工事打合せの中で、生徒の安全確保に努めるよう指示した。		
1 2 学校施設維 持管理	(1) 学校の実態を十分に把握し、適切に学校施設の維持管理を行っている。	A	学校の実態を把握した上で、緊急性の高いものから順次修繕を行った。	A	
1 3 中学生海外 派遣	(1) 中学生海外派遣事業実施委員会を開催し、派遣先やカリキュラムの検討を行っている。	—	令和5年度は海外派遣ではなく、セントアイヴス・スクールの生徒受入事業を実施した。	—	
	(2) 派遣する中学生の事前指導・事後指導が円滑に行われている。	—	セントアイヴス・スクールの生徒受入事業を実施した。		
	(3) 派遣中の情報収集、保護者への情報提供が適切に行われている。	—	セントアイヴス・スクールの生徒受入事業を実施した。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
14 奨学資金貸与	(1) 経済的に修学が困難かつ、修学の意欲のある者に奨学資金貸与制度の周知を行っている。	A	郡市内の高校及び町立中学校を訪問し、制度改正の説明と合わせ周知を行った。	B	
	(2) 奨学資金の未納者に対する追跡調査を行い、奨学資金の適正な管理を行っている。	C	催告書の郵送を継続しつつ、不能欠損について調査を進めた。		
15 スクールバス運行	(1) スクールバスを円滑に運行している。	A	バス停の廃止に伴い、始業式前に滞りなく運行ルートの変更を行うことができた。	A	
16 学校給食	(1) 委託業者との連携を密にし、安全・安心な給食の提供を行っている。	A	毎日、委託業者と打合せを行い、情報共有や共通認識をもつことができ、円滑に給食を提供できた。	A	▲保護者の給食費の負担については、工夫や財源の活用等で支援されたい。
	(2) 地元食材を活用し地産地消の取り組みを行っている。	A	J Aや生産者と打合せをし、安全・安心な地元食材の優先的な使用に努めた。		
	(3) アレルギーに配慮した給食の提供を行っている。	A	「学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」に基づき、食物アレルギーを持つ児童生徒に対し面談等を行い、代替食・除去食の提供を適切に行った。		
	(4) 給食費の未納対策を行っている。	B	学校と連携し、未納解消に努めた。		

〔 生涯学習 〕

項 目	評 価 指 標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
17 生涯学習並びに社会教育の充実	(1) いきいき講座の利用促進・自主教室の充実を図っている。	A	いきいき講座は町民編62講座、行政編73講座を開設。自主教室は56教室開催し、生涯学習の充実を図った。	A	▲地域で活動したいという方が減ってきている中で、地域活動のニーズの把握や、地域のまとまりを強くするような取り組みが必要ではないか。 ▲図書館の整備にあたっては、図書やサービスの充実により利用者数が増えるような施策を進めてもらいたい。
	(2) 学校支援ボランティアやコーディネーター交流会等を通し学社連携・融合事業の推進を図っている。	A	広報誌を作成し活動をPRした。		
	(3) 青少年教育並びに成人教育の推進を図っている。	A	青少年健全育成、女性団体の支援を行っている。 また青少年から高齢者まで各年代ごとに講座開設を行った。		
	(4) 地区ぐるみ活動等地域コミュニティ活動の充実を図っている。	B	生涯学習推進協議会と連携した地域コミュニティの醸成を図った。		
	(5) 町民と協働し花で包まれたまちづくりを行っている。	A	大規模花畑や花いっぱいコンクールの開催、フラワーボランティア活動等を行い、花で包まれたまちづくりを行った。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
17 生涯学習並びに社会教育の充実	(6) 未来大学を開設しまちづくりに関する講座の実施及びアクションプランを作成する。	A	益子芳星高校2年1組を対象に町民大学の後継事業とし19講座(内1講座中止)を実施した。9つの班がそれぞれアクションプランを作成し、13の実践を行った。		
	(7) 図書の充実と図書ボランティアグループ支援を行い、図書活動の推進を図っている。	A	移動図書館(以下BM)の導入に伴い、BM用図書として児童書及びヤングアダルト向け図書の充実化に努めた。 また、BMの導入により、町内の幼稚園保育園、小中学校等を巡回し、子どもの読書活動の推進を図った。 また、ボランティアグループと連携し、利用しやすい図書室づくりに努めた。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
18 文化関係事業充実	(1) 歴史文化基本構想や日本遺産を活用した地域活性化事業を実施する。	A	歴史文化基本構想を軸とした文化財の保存と活用を目的として、ましこ検定や世間遺産サイクルツアー等を実施し、町の歴史・文化を周知する機会となり、郷土学習の推進も図ることができた。日本遺産活性化協議会」において、人材育成事業や普及啓発事業を実施し、地域活性化につなげる取り組みを行うことができた。	A	○サイクルツアーは町の歴史・文化のPRになる良いイベントである。さらに参加者が増えるような取り組みを進めてもらいたい。 ▲ましこ検定の受験者数を増やすために、受験のハードルを下げる取り組みが必要ではないか。(例題の事前提示、観光客向けの簡易版等)
	(2) 芸術・文化の振興を図っている。	A	文化協会等の文化団体の育成、芳賀地方芸術祭の実施運営を行った。自主事業として文化祭・音楽祭・アマチュアバンドコンサートの開催により芸術・文化活動の振興と充実を図ることができた。		

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
18 文化関係事業充実	(3) 文化財の保護に努めている。	A	文化財保存事業の推進、文化財指定手続きの継続、文化財保護意識の啓発に努めた。 益子町詳細遺跡分布地図を基礎とした遺跡保護に繋がる指導の実施。 県指定文化財「益子参考館上台」茅葺屋根修繕工事に着手し令和6年度完了予定。		
	(4) 町民会館の管理運営及び受付業務を適切に実施している。	A	会館ホールを活用し、民謡・舞踊等や小中学校等の吹奏楽発表、ミュージカル等を開催し、文化交流の機会を提供することができた。できた。管理においては、利用者の安全確保、施設・機材のメンテナンスの徹底、利用者への適切な説明等の対応を行った。		
19 社会体育事業充実	(1) 総合型地域スポーツクラブの育成支援を図っている。	A	クラブと連携を図り、クラブのPRと事業の適正な執行に努めた。また、南運動公園受付業務について令和4年度から業務委託をしている。	A	

項目	評価指標	自己評価		外部評価	
		評価	達成状況と改善策	評価	成果(○)と課題(▲)
19 社会体育事業充実	(2) 少年スポーツ教室を開催し、心身の向上を図っている。	A	6月に元日本代表の迫田さおりさんによるバレーボール教室、12月に西川清紀範士八段と平尾泰教士八段による剣道教室と栃木SC選手によるサッカー教室、2月にオリンピック金メダリストの谷本歩実さんによる柔道教室を開催することができた。		
	(3) 体育施設の整備、適切な管理運営を図っている。	A	南運動公園及び北公園の施設修繕、遊具点検及び修繕など、利用者が安全そして快適に使用できるよう努めた。また、南運動公園、北運動場体育館のLED工事を行い、光熱費の削減、利用者が快適に使用できるよう努めた。		
	(4) スポーツ団体の育成・支援を図っている。	B	スポーツ少年団、スポーツ協会等の団体へ活動支援を行ったが、年々スポーツ少年団の加入者数の減少・活動休止傾向にある。		
	(5) はが路ふれあいマラソンの開催を通し、地域住民のスポーツ参加意欲の向上と芳賀郡市のPRを図っている。	A	12月17日に4年ぶりに開催することができた。大会評価も良好。(RUN NETで90.3点)		